

日本の名作名文ハイライト

愚なる (二) 母の散文詩
岡本かの子

朗読 大石佳世

出所 佳世のお話(1)

<http://www.voiceblog.jp/yokoyama34rounana/>

teabreak 編

愚なる (二) 母の散文詩

岡本かの子

わたしは今、お化粧をせつせとじています。

きょうは恋人のためにではありません。

あたしの息子太郎のためにです。

わたしの太郎は十四になりました。

そして、自分の女性に対する美の認識についてそろそろうんぬんするようになりました。

太郎の為にも、わたしはお化粧をしなくてはなりません。太郎が、いまにいくら美しい恋人を持つとしても、ママが汚なくては悲観するでしょう。そういう日の来ない先から、わたしはせつせとお化粧します。きょうは恋人の為にはありません。太郎の為に未来のずっと未来までも、美しいママでありたいお仕度の為にせつせとお化粧のお稽古です。

いまに美しい恋人を持っても、つい傍のママが汚なくては太郎も悲観せざるを得ないでしょう。美しい恋人に美しいママ、それであれば、太郎の幸福は完全でないでしょう。現在だとて、きょうの今にも太郎は学校から帰ります。お菓子をもらうより先きに太郎はママを見ます。その時、太郎の眼にママが奇麗でなかったら——わたしはお化粧をします。今日は恋人の為にはありません。

わたしは学びます。唐うたを、やまと言葉をフランス語を。そして知ろうとします、哲学を宗教を。また絵を文学を、音楽を味います。きょうのそれらは単にわたしの欲求や嗜好ではありません。太郎のママは優れた思想や感覚を持たねばなりません。わたしは学びます。唐うたを、やまと言葉をフランス語を。そして知ろうとします哲学を宗教を。また絵を文学を音楽を味います。それゆえ太郎の着物の綻びも縫うてやるひまがありません。太郎は、ぶつぶついつているようです。しかし、いまに御らんなさい。太郎はやがて、唐うたを、やまと言葉をフランス語を学び、そして哲学を宗教を知ることによってよき思想を持ち絵や文学や音楽を味って充分官覚の洗練されたそのようなママを持ち得るでしょう。太郎は、綻びの着物の前をかき合せながら、そのようなママを持ち得たプライドに満ちて幸福でしょう。

今日からお金まうけを始めたのです。わたしの下手な詩でも買って下さい。

わたしはお金をもうけて、恋人に香いのいい煙草一箱買おうとするのでもありません。また、わたしのドレス一枚買おう為めでもありませんよ。

当てる御覧なさい。当りませんか。

やっぱり太郎についてですよ。ですが、年頃の男の子にあまりお金をやっつてはよくありません。わたしは貯めて置くのですよ。お金は麻

のハンカチへ一包、二包。それから古い革手袋や、昔はやったお高祖
づきんの布つ片にしっかりくくって。そして、決して決して太郎には
見せません。

わたしは遣るのです。そのお金でいまに太郎の美くしいお嫁に着物
を買ってやるのです……太郎はどこからかきつと美くしいお嫁
さんを連れて来ましょう……そのお嫁さんは、ひよつとするとき
つい意地悪るかもしれません。

それでもわたしはきれいな着物を買ってやります。太郎は美くしい
着物を着たお嫁さんをまた一だんと好みましょうから。お嫁さんが、
わたしをいじめるお嫁さんでもおかまひなし、わたしは太郎のよろこ
びのために、そのお嫁さんに美くしい着物を買ってやります。

ですから、わたしは今日からお金を貯めなければなりません。

わたしの下手な詩でも買って下さい。わたしが香のいい煙草一箱恋
人におおうとでもすることですか、またドレス一枚わたしの為には買は
ふとするのでもありませんよ。

みんな太郎の為に……太郎の美くしいお嫁さんに着物を買う
ため麻のハンカチ古い革手袋、昔はやったお高祖づきんの布つ片へ
そっと貯めて置こうとするお金なんです。